

特別支援教育実習 学習指導案を作成する際のポイント

特別支援教育実習では、研究授業の際に学習指導案を作成します。形式は、各実習校および指導教諭の指示に従ってください。ここでは、北海道教育大学附属特別支援学校および北海道釧路養護学校の学習指導案になり、学習指導案の作成方法(概要)について説明します。

1. 表紙(1頁・上)には、①実習生の所属等と②研究授業の概要を記します。

実習校名：北海道教育大学附属特別支援学校
学生番号：1202
課程・専攻：教員養成課程・地域学校教育専攻
担当教員：釧路太郎

〇〇〇〇〇〇 学習指導案

特別支援教育実習の場合、多くがTT(複数の教員がかかわる)による授業である。教育実習生をMT(メイン)、教諭をST(サブ)と表記する場合もある。

日 時：平成 年 月 日() 校時

〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所： 学部 年 組

対象児童：小学部 男子〇名 女子〇名 計〇名

指導教諭：〇〇〇〇 ㊦

指 導 者 教育実習生： T1 〇〇〇〇 ㊦

教 諭： T2 〇〇〇〇 ㊦

教 諭： T2 〇〇〇〇 ㊦

2. 研究授業を行う単元(題材)について記します。

1 単元(題材)名

2 単元について

例えば、「生活単元学習」の学習指導案であれば、①生活単元学習とは何かにふれた上で、②対象となる児童生徒(学級・グループ)の実態、③単元を設定した理由などを記述する。

3 単元の目標

箇条書きとし、あまり多くない方がよい。「～する」などの児童生徒の立場で記載し、児童生徒につけたい力を具体的に記述する。学校によっては学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」「試行・判断・表現」「技能」「知識・理解」の観点に沿って評価する場合もある。

4 単元の指導計画

	指導日	題材名・学習内容
第1時	〇月〇日()	
第2時	〇月〇日()	
第3時(本時)	〇月〇日()	

3. 研究授業(本時)について記します。

5 本時案

(1)題材名

(2)本時の目標

単元の目標を踏まえて、本時の具体的な目標を設定し簡潔に記述する。「～できる」など、児童生徒の立場で記述する。

(3)個別の目標

短期間の「観察」から得られた情報のみでは、実態を正確にとらえているとはいえず、適切な目標設定もできない。指導教諭とよく相談して記述すること。

児童	実 態	目 標
A		
B		

(4)学習展開

時間	児童の活動	指導・支援	備考
導入 展開 まとめ	○学習活動の流れと学習する内容が明確になるように記述する。	○目標を達成するための具体的な指導や工夫について記述する。 ○OTでは、それぞれの教員の役割を明確にして記述する。	

4. 評価について記します。

6 評価の観点

(1)本時の目標の評価

(2)個別の目標の評価

「5 本時案 (2)本時の目標 (3)個別の目標」と整合すること。

児童	評価の観点	評 価
A		
B		

学習指導案作成あたっての注意

- 学習指導案の形式は、学校によって異なります。教育実習開始前に、前年度実習生が作成した学習指導案を見ておくと良いでしょう。
- 児童生徒の実態や目標の設定など、指導教諭・補助教諭からさまざまな情報をいただいて作成することを心がけましょう。
- これまでの教育実習を振り返り、①教育実習から学んだこと、②教育実習を終えて気づいた自身の学習課題などについてあらためて検討し、それらを特別支援教育実習に生かしましょう。

(文責・戸田竜也)